

5-3 教員及び職員の情報通信技術活用能力の研修

5-3-1 FDのための情報技術研究講習会

<事業計画>

私立大学教員の ICT 教育技術力の向上を支援するため、大学・短期大学の教員を対象に学外 FD として対面方式で実施する。分野に共通する LMS を用いた授業の個別最適化、対面授業とオンライン授業を効果的に組み合わせた反転授業、生成 AI の利活用、授業コンテンツ使用の著作権法上の知識・理解の習得を目指す「全体会」と、参加者が希望するテーマの「ワークショップ」を実施する。例えば、オンデマンド動画教材の作成、反転授業のデザインと学修内容の動画制作、学修データの解析方法、対面・オンラインでの ICT 活用法(LMS、2D メタバース、授業支援のための生成 AI などの紹介)、オンライン多職種連携教育、オンライン授業・対面授業の学修評価方法(学生の生成 AI 利用含む)などについて、基礎的な理解を深め実践できるよう支援するとともに、参加者同士で意見交換しながら理解を深める。

<事業の実施結果>

「FD 情報技術講習会運営委員会」を継続設置し、2024 年(令和 6 年)12 月 2 日、12 月 20 日に平均 8 名が出席して 2 回開催し、「FD のための情報技術研究講習会」を実施し、第 42 回臨時総会(令和 7 年 3 月 28 日)に報告した。以下に、研究講習会の活動を報告する。

(1) 開催要項の策定

プログラムは、「全体会」で①反転授業の質を高める効果的な授業方法を考える、②生成 AI の利活用対策、③生成 AI を含むデジタル教材の著作権対応の情報提供を行うことにした。また、「ワークショップ」では、①オンデマンド教材を作成してみよう、②文系学生向けデータサイエンス授業デザインを考える、③対面・オンライン授業(生成 AI 含む)での ICT 活用法、④事前学習を促進する反転授業を考えるの 4 コースを設定し、参加者が希望に応じて参加するアラカルト方式で理解の深化を目指し、以下のように開催要項を策定した。

令和 6 年度 FD のための情報技術研究講習会開催要項

1. 開催日程：令和 7 年 2 月 25 日（火）
2. 会 場：追手門学院大学茨木安威キャンパス
3. 対 象 者：授業改善に情報通信技術の活用を希望される私立大学・短期大学教員
4. 講習会の概要

対面授業に加えて教育のデジタル変革(DX)が進みつつあります。文部科学省においてもオンライン授業を導入して、学生一人ひとりの可能性を最大限に伸長する学修者本位の教育への転換や、教育の質向上・高度化を目指した対面授業とオンライン授業を効果的に組み合わせた新しい学びの創出を大学に働きかけております。

これからは、対面とオンラインを組合せた授業を如何にデザインし、学生に最良な学びを提供できるかが問われるようになる中、実際にどのように自分の授業の中で展開していけば良いのか、不安や戸惑いを感じることも少なくないのではないのでしょうか。

そこで、本研究講習会では、反転授業、生成 AI の利活用対策、著作権対応、オンデマンド教材作成、ICT 活用、データサイエンス授業などについて、基礎的な理解を深め実践できるよう、「全体会」と「ワークショップ」を設定しました。

5. プログラム概要

【全体会】10:00～12:00 A会場

- (1)反転授業の質を高める効果的な授業方法を考える
岩崎 千晶 氏（関西大学教育開発支援センター長、教育推進部教授）
- (2)生成 AI の利活用対策
浦田 悠 氏（大阪大学全学教育推進機構教育学習支援部准教授）
- (3)デジタル教材の著作権対応（生成 AI を含む）
中村 壽宏 氏（神奈川大学学長補佐、教育支援センター所長、法学部教授）

【ワークショップ】 13:00～17:15

(1) ワークショップ 1 13:00～15:00 A会場

オンデマンド教材を作成してみよう

枋尾 真一 氏（追手門学院大学経済学部経済学科准教授）

【コース内容】

オンデマンド用動画教材として、パワーポイントに字幕を付与したビデオを作成します。具体的には、下記フリーソフトを利用して実習を行います。また、合成音声の体験もしていただきます。

【事前準備】

フリーソフト「VOICEVOX」と「ClipChamp」を使用しますので、事前にインストールをお願いします。

【参加要件】

演習の都合上、WindowsPCに限定しますので、ご了承ください。

(2) ワークショップ 2 13:00～15:00 B会場

文系学生向けデータサイエンス授業デザインを考える

井上 明也 氏（松蔭大学観光メディア文化学部教授）

【コース内容】

文系大学におけるデータサイエンス関連授業の取り組み事例を紹介し、文部科学省が推進している「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度」のモデルカリキュラムにとらわれず、文系の大学だからこそ必要な学びがあることを意識した授業について、グループワークを含めて実体験していただきます。

【事前準備】

データサイエンス関連授業科目のシラバスがあれば、持参してください。

(3) ワークショップ 3 15:15～17:15 A会場

対面・オンライン授業（生成 AI 含む）での ICT 活用法

及川 義道 氏（東海大学教育開発研究センター所長、理系教育センター次長・教授）

【コース内容】

LMS や 2D メタバースを用いた授業支援、Clica、CommentScreen、Slido を用いた授業内での学生とのコミュニケーション方法、タブレットを用いた板書などワイヤレス環境を活用したツールの利用、授業支援のための ChatGPT の使い方を体験・実習します。

【事前準備】

他のクラウドサービスのサインインに用いますので、事前に Google アカウントを取得しておいてください。

(4) ワークショップ 4 15:15～17:15 B会場

事前学習を促進する反転授業を考える

岩崎 千晶 氏（関西大学教育開発支援センター長、教育推進部教授）

【コース内容】

学生の事前学習へのモチベーションを高める教材作成と学習活動の実施方法について検討し、事前学習と対面授業を効果的に結びつける授業設計を、参加者同士で意見交換しながら立案します。

【事前準備】

反転授業を導入してみたい科目のシラバスを 4 部コピーして持参してください。

(2) 実施結果

2025 年(令和 7 年)2 月 25 日に開催し、追手門学院大学茨木安威キャンパスを会場に 32 大学 1 短期大学から 38 名の参加があった。以下に、アンケート結果を報告する。

1. 全体会

- ・ 反転授業について昨年に引き続き聴講し、自らの授業運営を振り返ることができた。
- ・ 生成 AI の著作権を含む教育利用を知る目的で参加し、現状を知ることができてよかった。

- ・ 日頃は自分たちだけで、調べながら進めていた AI 対応などの課題について、専門や実践の立場からの話をうかがえて大変勉強になった。
- ・ いずれの講演も新鮮かつ有意義であり、今後の教育実践の参考になったなど。

2. ワークショップ

① オンデマンド教材を作成してみよう

- ・ 学生から授業時間外学修で配信している動画に字幕をつける要望を受け参加し、さまざまなアプリや機能が知れて良かった。
- ・ 使ったことがないソフトや知らなかった機能の操作で戸惑ったが、慣れれば便利に活用できると思った。
- ・ もう少し踏み込んだ内容を想定していたが、予想以上に基本的な内容だった。

② 文系学生向けデータサイエンス授業デザインを考える

- ・ 学生に実践させたいテーマで役に立った。
- ・ 文系学生に必要なスキルを知ることができたのはよかったと思う。
- ・ マーケティングの分析方法をもっと聞きたかった。

③ 対面・オンライン授業(生成 AI 含む)での ICT 活用法

- ・ 多岐に亘る内容をわかりやすく説明され、体験もスムーズにできてとてもためになった。
- ・ 様々なツールを知り、使ってみたいとも思ったが、コスト的に厳しいと感じる面もあった。
- ・ 生成 AI をどのように活用できるのか、その領域が把握でき、学部でも共有していこうと思う。

④ 事前学習を促進する反転授業を考える

- ・ 分野の少し異なる方の視点は、やはり参考になる部分があり、学内でも検討できればと思う。
- ・ 反転授業という言葉自体知りませんでしたが、実践されている先生とのグループ作業を通して、反転授業が学生の知識の定着に寄与できるのではないかと考えた。
- ・ 個別対応をしてほしかった。

3. ワークショップの達成度(アンケート 23 名(6 割)の回答)

ワークショップ名	達成できた	見通しがたった	達成できなかった
①オンデマンド教材を作成してみよう		9 割(11 人)	1 割(1 人)
②文系学生向けデータサイエンス授業デザインを考える		7 割(7 人)	3 割(3 人)
③対面・オンライン授業(生成 AI 含む)での ICT 活用法	1 割(1 人)	9 割(14 人)	
④事前学習を促進する反転授業を考える	1.5 割(1 人)	7 割(5 人)	1.5 割(1 人)

以上の取組みをもって、FD のための情報技術研究講習会の事業は終了した。

5-3-2 大学職員情報化研究講習会

<事業計画>

私立大学職員の ICT 活用能力の開発・強化を支援するため、大学・短期大学を対象に 10 月頃に対面方式による「基礎講習コース」を実施し、データ取り扱いの基礎的なスキルの習得と課題解決の演習を行う。なお、「ICT 活用コース」は休止する。

<事業の実施結果>

「大学職員情報化研究講習会運営委員会」を継続設置し、2024 年(令和 6 年)8 月 29 日に 13 名が出席して開催し、「大学職員情報化研究講習会」を 10 月に基礎講習コースを対面で実施し、第 41 回臨時総会(令和 6 年 11 月 29 日)に報告した。以下に、研究講習会の活動を報告する。

(1) 基礎講習コース開催要項の策定

10 月 21 日~22 日の 2 日間対面で、以下のようなプログラムとして全体会、グループ討議を実施する。

- ① 「全体会」では、データの取り扱いなど基礎的なスキルの習得と業務改革 DX(デジタルトランスフォーメーション)に向けた職員の役割を確認するため、「教学 IR の現状と課題」、「大学データの収集・前処理・分析・結果共有」、「DX の取り組みと生成 AI 試験導入」、「DX 人材育成による業務改革」の情報提供を行う。その上で、大学 DX の観点から職員各自が果たすべき役割やそれを実現するための手段として、ICT を活用する意義・重要性について理解を深めることにした。
- ② 「グループ討議」では、業務改革の DX について課題を絞り込み、自らがどのように関与すべきか、ICT を利活用した望ましい構想案を作り、発表・相互評価を通じて課題解決のスキルを高めることとして、以下のように開催要項を策定した。

令和 6 年度大学職員情報化研究講習会 基礎講習コース開催要項

1. 開催日程：令和 6 年 10 月 21 日(月) 9 時 30 分~22 日(火)16 時
2. 会 場：アルカディア市ヶ谷（私学会館）
3. 対 象 者：私立大学・短期大学に所属する職員
4. 開催趣旨
本協会では、私立大学における職員の職務能力の開発・強化を支援するため、業務改革 DX の観点から日常の業務を振り返り、ICT を駆使して望ましい大学業務の在り方をイノベーションできるように、最新のデジタル技術導入事例などを踏まえて知識・理解の獲得、実践的な考察力の促進支援、主体的に取り組む考察力の獲得を目指します。
5. 本コースのねらい
開催趣旨に基づき、参加者が次のような成果を修得することを目指します。
 - ① ICT の活用が大学の管理運営、教育活動の充実に果たしている役割を認識できる。
 - ② 問題発見・解決プロセスの体験を通じて、自己の業務の改善や職場における課題解決に ICT を駆使して、アクションプランを提案できる。
 - ③ 参加者間の意見交換・情報交流を積極的に図ることができる。
6. プログラム概要
 - (1) 情報提供 10 月 21 日 9:30~12:00
 - ① 開会挨拶：河合 儀昌 氏（金沢工業大学常任理事、運営委員会担当理事）
 - ② イントロダクション：木村 増夫 氏（上智学院理事、運営委員会委員長）
 - ③ オリエンテーション
 - ④ 関西大学における教学 IR の現状と課題ー導入から運用までー
川瀬 友太 氏（関西大学学事局授業支援グループ教育開発支援室・教学 IR 室グループ長補佐）

- ⑤ 大学データの収集・前処理から分析、結果の共有まで：そして価値創造へ
鎌田 浩史 氏（上智学院 IR 推進室チームリーダー/上智大学基盤教育センター非常勤講師）
- ⑥ 近大 DX の取り組みと生成 AI 試験導入による業務効率化
前川 昌則 氏（近畿大学経営戦略本部デジタル戦略室課長代理）
- ⑦ 現場から始める業務改革 ～DX 人材育成の取り組み～
北 真一 氏（日本女子大学管理部システム課長）
- （2）グループ討議 10 月 21 日 13：00～10 月 22 日 16：00
 - ① 討議と成果のまとめ
大学 DX の観点から職員各自が果たすべき役割やそれを実現するための手段として、ICT を活用する意義・重要性について理解します。
具体的には、業務改革の DX について課題を絞り込み、自らがどのように関与すべきか、ICT を活用した望ましい改善策の提言作りを通じて、主体的な考察力、イノベーションに取り組む姿勢の獲得を目指します。
 - ② 発表・相互評価
1 日目の最後に中間発表を行い、他グループからの意見・感想を受けて、2 日目の午前中にグループ討議を通じて振り返りを行います。
その上で、午後に全グループによる最終発表を行い、グループ間による相互評価・意見交換を通じて、様々な課題や解決のあり方があることを体験します。
- （3）事後研修
グループ討議の成果、本講習会に参加して獲得したこと、今後 ICT をどのように業務に活かしていくか等についてとりまとめ（Web 回答）を 11 月 8 日（金）までに提出していただきます。

（2）基礎講習コースの実施結果

36 大学、1 短期大学から 60 名の参加があった。以下に、実施結果の概要を報告する。

1. グループ討議からの提案概要

- ① ICT の活用については、「チャットボット」、「電子決済・ペーパーレス」、「コミュニケーションツール」、「RPA」、「AI」、「BI ツール」の提案があった。
- ② DX 化に向けた課題解決としては、「環境づくり」、「安心感・コミュニケーション促進」、「プロジェクト化」など、対応や体制面から推進する提案もみられた。
- ③ 提案の一例として、「受験生と教員のマッチングアプリ」、「資料・データの検索時間削減」、「IR 分析結果の活用」、「学生を巻き込んだペーパーレス化の取り組み」、「窓口業務のスマート化」などがあげられた。

2. 参加者の事後研修レポートから、今後の取り組み姿勢の一部を紹介

- ① 業務 DX における SD 研修を学内で実施したい。
- ② 紙申請書のデジタル化や手作業業務の効率化を優先的に進め、システム導入の基盤を整えたい。
- ③ 窓口業務の負担軽減をテーマに AI を活用した対応を構築したい。
- ④ 生成 AI に関して、まずは情報システム課内で業務に活用できるか検証を行いたい。
- ⑤ データの見える化と生成 AI の活用を検証するチームを構築したい。
- ⑥ チャットボット設置等により、単純作業を減らし、業務の質の向上に時間をあてたい。
- ⑦ 業務プロセスを洗い出し必要性を再評価することで、情報検索や確認作業のプロセスを改善し、RPA や自動化ツールにより業務の効率化を図りたい。
- ⑧ 上位者や学生を巻き込んだ改善活動を意識しながら、業務改善に取り組んでいきたい。

なお、開催結果の詳細は、巻末の 2024 年度事業報告の附属明細書【2－7】を参照されたい。

以上の取り組みをもって、大学職員情報化研究講習会の事業は終了した。